

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

選択, 記述, 計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

今年は論述問題が出題されなかった。

その他トピックス

「理論分解電圧」が出題された(I問4)。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 計算 記述	電気分解	化学	教科書にはない「理論分解電圧」が出題され, 戸惑った受験生がいたと思われる。	標準
II	計算 記述	陽イオンの反応と性質, 溶解度積, 結晶	化学	陽イオンの分離を題材に, 溶解度積, 化学反応式, 結晶の密度計算(文字式)などを含む総合問題である。	標準
III	選択 記述	有機化合物の構造決定	化学	環状エステルの構造決定を題材に, 元素の確認方法, シストランス異性体, 不斉炭素原子などの総合問題である。	やや難
IV	記述 計算	糖	化学	デンプン, セルロースなどの性質, アルコール発酵, リサイクルなどの内容である	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 基礎的な事項を十分整理しておくこと。
3. 論述問題は努めて平素から書く練習をしておくこと。
4. 問題演習を十分に行っておくこと。